

「雪害による犠牲者ゼロのための地域の防災力向上を目指す検討会」（第１回）
議事概要について

１．検討会の概要

日 時：平成２０年９月１６日（火）１４：００～１６：００

場 所：内閣府防災Ａ会議室

出席者：大西座長、赤城、伊藤、井上、上村、川村、佐藤、沼野、
山口、五十嵐（代理：石川） 各委員
内閣府田尻参事官、国土交通省井上課長 他

２．議事概要

検討方針及び個別被災事例のヒアリング調査対象の選定方針等について事務局より説明を行った。これらの内容について各委員にご議論を頂いた。委員からの主な意見等は以下のとおり。

（主な意見）

- 雪害の形態については、豪雪年と平年並みの雪の場合に分けて、雪の降り方や気温など、気象変動に伴う様相の変化も考慮に入れた調査もしてほしい。（H17 と H19 の比較等）
- 除雪作業に伴いどういう状況で事故にあったかを山形県で調査したことがあるが、高齢者が無理をして被災するケースとしては、①実際には体力的に無理なのに意識は無理と思わないで油断してしまうケース、②危ないと思っていながらも他にやってくれる人がおらず自分でやってしまうケース、③他にやってくれる人がいるが気兼ねをして自分でやってしまうケースがある。このようなケースに対してどうしたらよいかも考慮した調査をしてほしい。
- 自分自身で雪処理ができるか否かを誰が判断するのかという点も難しい問題である。
- 都市部と農村部では非常に状況が異なる。都市では周囲が高齢者のことを把握していないケースが多く、除雪に支援が必要な者の情報をどう共有するかが課題である。一方、農村部では支援してくれるマンパワーがない。
- 被災した現地では周囲で支援する体制がどうなっていたのか、そこをきちんと把握すると大変有効な調査になる。
- 行政区域を越えて雪害の実態に関する情報を共有することはとても大事なことです。
- ヒアリングやアンケートは調査する時期が重要であり、時間がかなり経過し

- てからアンケート調査を行い集計されても正しいデータにはならない恐れがある点に留意する必要がある。
- 事故が起きた原因分析をしなければいけないので、警察署が把握している情報も含めて、今回踏み込んで調査するという事なので、ぜひ良いデータをとってほしい。
 - 人口 10 万人あたりの犠牲者数で示して欲しい。リスクという観点で見たときに 10 万人に何人かというのは他の災害とも容易に比較が可能であり、問題となる範囲がかなりはっきりと見えると思う。
 - 平成 17 年度と平成 19 年度の事故データの比較から、平常時と豪雪時との事故の傾向の違いが読み取れるので、平成 17 年度のデータも可能となる範囲で比較して、平常時の対策は何をすべきなのか、豪雪時の対策は何をすべきなのか検討してほしい。
 - 屋根から落ちてすぐには助けに行けないというのが一番多いので、調査では事故があったとき、その周りで同じような除雪をしている人がいたのかを聞いてほしい。
 - 一方的に迷惑をかけるという意識から人になかなかお願いできないというような心理的なものも調査の中で調べてほしい。
 - 「除雪のために仕事を休んでも良い」という社会的コンセンサスをつくれなか。そのような目的意識を持って調査してほしい。
 - 調査項目について、もう少し詳細に項目をそろえて調査に望んで欲しい。
 - 山形県では県と一緒に屋根からの安全な雪下ろしのためのビデオを作成した。そういったものも検討の参考にしてほしい。
 - 屋根雪の処理を誰が判断して行うかによって、除雪回数や事故にあう頻度に相当の差が出る。高齢者は頻繁に雪下ろしをしたがる。誰がどのタイミングで屋根雪の処理をしたのかというヒアリングが非常に重要だと思う。山古志の仮設住宅では、区長が中心となって集落で話し合い、屋根雪処理のタイミングを判断して実施していた。
 - 検討会のアウトプットとして、注意啓発の提言及びパンフレットを作成して完了とならないように、どういうアウトプットをしたら本当にゼロに近づくかを検討してほしい。
 - 対象とする雪害の範囲について、レジャーに起因する事故や交通事故をどうするのか、限られた時間で議論するのは難しいと思うが、決めておく必要がある。
 - 過去10年間、地方新聞から雪害に関する記事を収集している。昨冬、新聞集計では犠牲者が136名、平成18年豪雪時も犠牲者が276名であった。これは消防庁発表の数値と大きく異なる。被害実態の数値等を出す場合は、収集方法

を明確にしておく必要がある。

○雪国では雪下ろし中の事故だけでなく、ただ滑って転んで重傷の人もある。

転倒は雪害に上がっていないと思う。

○北海道ではツルツル路面で転倒して寝たきりになるなどのケースが課題となっているが、今回どこまでを対象とするか明確化した方がよい。

○高齢者にとって転倒など冬の外出行動に伴う事故も、雪処理事故と同様大きな問題なので、是非調査対象に含めて欲しい。

○融雪災害、車内での窒息についても調査の対象に入れてほしい。

○交通事故に関係しているものも調査の中で、工夫して情報を集めてほしい。
雪に絡んだ交通事故も雪の犠牲者にカウントされるのではないかと思うので、整理してほしい。